

平成 2 9 年度外部評価結果

外部評価委員会健康・栄養研究分科会

平成 3 0 年 3 月 1 5 日（木）実施

平成29年度 外部評価委員会 委員コメント

身体活動研究部		栄養代謝研究部	
評点	コメント	評点	コメント
5.0	我が国の身体活動研究のリーダー的な存在になっていると言える。 長期追跡を行っていることによって可能な研究成果が得られている。 部長直轄、米国との共同研究が注目される。 持久的能力等の介入研究のメタ分析等がすぐれている。	4.0	栄養素と生活習慣病の関連についての動物実験が確実にできている。 二重標識水による身体活動の妥当性研究によって、食摂取基準が改善されることが期待される。 コホート研究の参画により若手育成をねらっていて良い。
5.0	幅広い研究が行われていて評価できる。 全身持久力も長期間観察され、興味深い。評価方法等の研究も進めて欲しい。 プロ野球観戦と高齢者の主観的幸福感は興味深い。 テレビ観戦や他のスポーツ観戦なども検討して欲しい。	4.0	現在未確認の部分の研究が実施されており評価できる。 高齢者、糖尿病、COPDなどのデータの今後の活用に期待する。 2型糖尿病患者の総エネルギー消費量は低いとの報告であったが、これだけが通常の食事療法のエネルギー量に反映される訳ではないのでは。
4.0	幅広い領域に関して研究を行い成果を上げている。 人員が必ずしも多くないので、成果としてあげる分野を絞ってはどうか。	4.0	現在話題となっている痩せに関するエネルギー必要量の測定など成果があがっている。 正、共同研究者を本研究所の客員ないし協力研究員として行うのが望ましい。
4.5	全身持久力と疾病発症に関わるコホート研究は高く評価したい。 腰痛に関する研究やうつ病に関する研究は横断研究であり、あまり評価できない。 少ないスタッフで良く多彩で幅広い研究を行っている。 放射線問題を引き起こしたことは残念で0.5点減点させて頂いた。	4.0	脂肪肝発症予防可能な大豆タンパク質の研究は今後期待したい。
4.0	資料、説明ともに分かりやすい。できれば資料の様式を統一してもらえると更に分かりやすい。 成果は十分に出ていると考える(論文を含めて)。	3.0	計画にそった成果が出ている。 特に発表論文数は評価できる。
4.5	随分幅広い研究。研究員の少ない中でよくぞ成果を出していると思う。 全身持久力基準値、DM罹患率(7年、16年、それ以上の追跡)の話題は是非政策に繋げる方向で取り組んで欲しい。 腸内細菌叢研究は大変興味深い。その背景となる食生活、生活習慣とセットで発表して欲しい。	4.0	概日リズム/スクロース、脂質という肥満発症要因によって時計遺伝子の発現変化が異なる？ エネルギー代謝/食事摂取基準に生きる基礎研究重要施設入所者の身体活動レベルはかなり低いという結果は即、摂取基準の見直しに繋がりますね。年齢、要介護度は？ 2型DM、総エネルギー消費量→食事療法への反映をそのままして大丈夫ですか。随分差がありますね。
平均 4.5		平均 3.8	

平成29年度 外部評価委員会 委員コメント

臨床栄養研究部		食品保健機能研究部	
評点	コメント	評点	コメント
5.0	糖尿病の遺伝子異常に関して、引き続き優れた研究が行われている。 動物実験による糖尿病発現に関する研究も先行研究を踏まえ優れた研究が積み重ねている。	4.0	食品分析に関しては、消費者庁と連携した機能性関与成分に関する検証を行い活動的である。 機能性表示食品に関し、セカンドオピニオン事業を意欲的に実施し、成果があがっている。 イソフラボンの効果に関してシナジー研究の有用性が確認されている。
4.0	糖尿病の原因となるインスリン受容体に関する基礎研究が行われ、成果が見られている。 動物実験の基礎で解明された内容をヒトにも繋げるためにも時間栄養研究室との研究に期待する。	5.0	分析だけでなく、分析精度管理や分析方法の監視など研究所でないとできない対応が実施され評価できる。 情報提供の認知度が高く継続され成果が見られる。 情報提供から教育への取り組みに期待したい。
5.0	糖尿病研究を研究の中心に成果を上げている。 望むらくは栄研独自となる研究を行って欲しい。 研究所の顔として、この研究室を特化するのはいかがでしょうか。	4.0	行政対応の研究室であるが、4室をまとめて順調に運営している。 一層一般への普及を望む。
5.0	肥満がなくても代謝異常を来すヒトが男女で40%程度存在する結果は興味深い。今後の特定健診保健指導に活かして欲しい。	5.0	膨大な健康食品の有効性安全性をcheckするのは大変で、今後頑張ってもらいたい。
3.0	原著論文のIFがすばらしい。 おおむね計画通りの成果があがっている。 企業と組んでの社会実装に向けての取り組みを期待する。	4.0	効果的な情報発信は高く評価できる。行政、消費者にも活用されている。 安全性・有効性情報データベースの活動は極めて重要。 行政対応を着実にいった上で研究成果も充実している。
5.0	メタボリックシンドローム、KCNQ1(日本人特有)の発現機序、興味深い。 腸内細菌の関与は興味深い。今後の研究に期待します。 今後の展開/当研究所、理化学研究所、東京大学の三者に企業の参入が見込まれるとのこと。是非実現の方向へ。社会貢献度が高いと思います。 ※時間栄養学研究室に期待します。	4.5	研究者は論文が書く間がない、は根源的な問題ですね。 評価の方法に何か問題があるのか？ 健康食品のデータベース(HFNet)の充実には頭が下がります。信頼しています。成果は大いに出ています。 情報提供→教育は意味があります。論文投稿中とのことでしたが、成果を知りたいです。 医薬基盤研との連携はどんどん進めて欲しい。 薬学部、栄養、医療系学部の学生の認知度が低いのがっかりです。もっと拡がって欲しいです。
平均 4.5		平均 4.4	

平成29年度 外部評価委員会 委員コメント

栄養疫学・食育研究部		国際栄養情報センター	
評点	コメント	評点	コメント
5.0	法定調査の企画実施評価を確実に迅速に行うだけでなく、再解析によって重要な結果が明らかになっている。 災害時の栄養の参照量に関してニーズにあった研究成果が得られている。 健康日本21の評価の貢献が大きい。 栄養摂取基準の活動に関しては人員不足が致し方ない要素であろう。	5.0	国際貢献で活動について多様な受け入れや国際シンポジウムなどを意欲的に実施している。 生物統計室において、有効な既存統計再解析ができています。 研修業務や普及啓発業務に関してなど多様な取り組みができています。 WHO協力センターは安定した取り組みが続けられている。
4.0	国民健康栄養調査、健康日本21の解析が確実に進められている。 「見える化」のデータを用いた今後が期待できる。 スコア法による食事の評価は災害時の栄養管理には必要であり、情報発信を望む。	4.0	十分な成果がみられる。 多岐にわたる研究が進められている。
3.0	食事摂取基準の設定を行う立場にあるならば、少なくとも設定可能なデータを出す研究を行って欲しい。	4.0	他の研究室との連携が必要と思う。
4.0	国民健康栄養調査の結果を深く分析していて好ましく感じた。	4.0	SDHに関する研究をもっと深めてもらいたい。 アジアで唯一の身体活動と栄養のWHO研究協力センターなのでリーダーシップをとって活発に活動してもらいたい。
4.0	ほぼ計画通りの成果が得られている。 都道府県の食育推進計画策定への貢献も高く評価できる。 行政(他省庁も含めて)への貢献も高く評価できる。	3.0	計画にそった着実な成果が得られている。 SDGsにも迅速に的確に対応している。
4.0	国民健康栄養調査の再解析、二次利用は評価します。 健康日本21の中間評価の解析にも活用されていることがどんどん広めてほしいものです。	4.0	国際栄養情報センターの名に入らない生物統計、研修連携、栄養情報技術まで入り、大変なことだと思います。 WHO協力センターとしての機能が継続することが決まり、一層のサポートを期待します。
平均 4.0		平均 4.0	

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所外部評価委員会
健康・栄養研究分科会 委員名簿

氏名	所属機関名及び職名
逢坂 哲彌	早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構 名誉機構長 特任研究教授
加藤 則子	十文字学園女子大学人間生活学部幼児教育学科 教授
川島 由起子	聖マリアンナ医科大学病院 栄養部 参与
近藤 和雄	東洋大学食環境科学部健康栄養学科 教授
下光 輝一	公益財団法人健康・体力づくり事業財団 理事長
鍋谷 浩志	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構食品研究部門 部門長
三保谷 智子	女子栄養大学香川昇三・綾記念展示室 課長

※敬称略、五十音順 任期:委員の委嘱承認の日～平成31年3月31日(2年)